

報道関係者各位

耐震性が高くてもデメリットにより選ばれ辛い壁式構造を改善 さくら構造(株)が「スペースウォール工法」を開発

大空間を作りにくい、間取りの自由度が低いといった悩みを解決

建築物の構造設計を主力とするさくら構造株式会社（本社：北海道札幌市 代表取締役 田中 真一 以下、さくら構造）は、耐震性が高いにもかかわらず「大空間を作りにくい」、「間取りの自由度が低い」というデメリットから忌避されている「壁式構造」を改善した「スペースウォール工法」を開発しました。スペースウォール工法では、RC壁を極限まで減らすことで従来の壁式構造では作りにくかった大空間を作り出すことが出来、間取りの自由度を向上させています。RC壁を極限まで減らしていても、壁の厚さを厚くし、プラン中央付近に壁柱を配置することでメリットである耐震性をそのままにしています。

「スペースウォール工法」は耐震性をそのままに大空間と間取りの自由度を両立

【スペースウォール工法はなぜ生まれたか】

壁式構造は柱と梁の代わりに耐久壁で建物の過重を支えるため、縦や横からの力に強く、地震や台風などに強い構造です。一方で、壁が増える事から大空間を作りづらく、間取りも制限されるというデメリットが採用のネックになっています。そういったデメリットを克服する事で、高耐震化の建物を日本中に普及することを目指して開発されました。

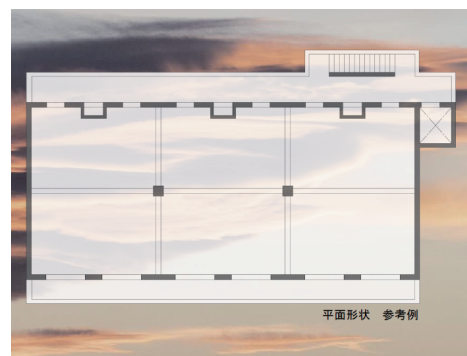
【スペースウォール工法のポイント】

- ①RC壁を必要最小限に減らします
- ②RC壁を減らす分、壁の厚さを厚めに設定します
- ③プラン中央付近に壁柱を配置します



実大実験棟「カンティーナ」

スマートウォール工法とスペースウォール工法の併用した壁式鉄筋コンクリート造の食堂付きオフィスビルとキッチンスタジオ



【スペースウォール工法のコストメリット】

耐震性を残しつつも、壁量の基準の最低量を目指すため、躯体費を削減することが可能です。また、間仕切り壁は非RC壁となるため、RC壁に比べ重量減となり、地震力が軽減されるという点でも躯体費削減につながります。また、基礎のコストダウンにも期待できます。

【スペースウォール工法の技術的注意点】

RC壁を極限まで減らすため耐火間仕切り壁が増加します。1㎡あたりの耐火間仕切りとRC壁の性能や価格、重量の調査を行った結果、耐火間仕切りは重量を軽減するだけでなく、RC壁に比べてコストが低く、遮音性能が同等かそれ以上に優れていることがわかりました。



詳しくはこちら

<https://sakura-kozo.jp/zisha-kouhou/space-wall/>

【お問い合わせ】

さくら構造株式会社 担当 小林 (こばやし)

Mail kozyo@sakura-kozo.jp TEL 011-214-1651 (9:00 ~ 18:00)

